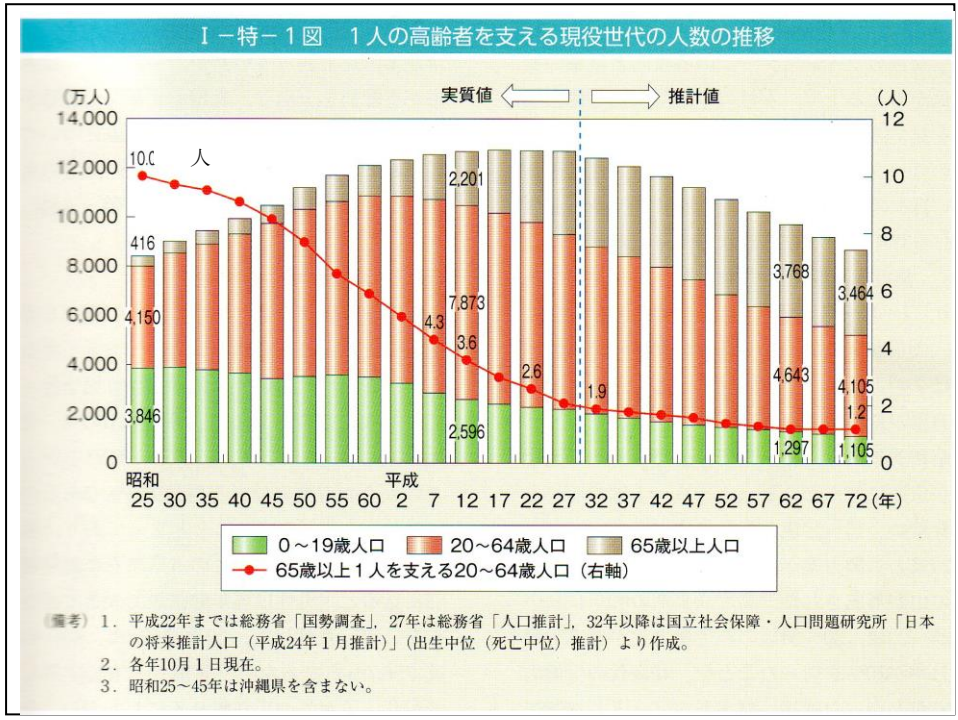


男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

Q22 高齢者を支える現役世代人口が減少し、平成32年には1人の高齢者を支える現役世代人口が2人を切ると推定されてるとか聞きますが実態はどうなんでしょうか。

A22 総務省統計局「国勢調査」によると、平成27年（2015年）の日本の総人口は1億2,711万人（速報値）となっているが、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計(24年1月推計)」(中位推計)によれば、平成60年（2048年）には1億人を割り、平成72年（2060年）には8,674万人になることが見込まれている。少子高齢化により、我が国の人口構造が大きく変化する中で、高齢者を始めとするケアを必要とする人口が増加し、それを支える現役世代の人口が減少している。ここで、現役世代を20～64歳とした上で、現役世代人口の65歳以上人口に対する比、すなわち1人の高齢者を何人の現役世代で支えているかを見てみると、昭和25年（1950年）にその比が10.0人だったものが平成7年（1995年）には半減して4.3人となるなど急速に減少し、さらに平成22年（2010年）には2.6人となっている。今後も、平成32年には2人を切り、72年には1.2人まで低下すると見込まれています。

I-特-1図 1人の高齢者を支える現役世代の人数の推移



備考) 1. 平成22年までは総務省「国勢調査」、27年は総務省「人口推計」、32年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位(死亡中位)推計)より作成。
 2. 各年10月1日現在。
 3. 昭和25~45年は沖縄県を含まない。

持続的発展のためには、現役世代、中でも大きな潜在力を持つ女性の活躍が喫緊の課題となっています。